2022年度第６回ＮＰＯ法人共同保存図書館・多摩理事会

１　日　時：2022年12月23日（金）　午後8時00分から
２　方　法：ZOOMアプリを媒介にしての遠隔会議
３　議決権のある理事：9名
　出席者：座間直壮、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、中川恭一、保坂一房、堀　渡
　欠席者：清田義昭、堀越洋一郎
　事務局員の参加者：雨谷逸枝

（１）第１号議案　会員の動向について【報告】
・2022年12月23日（本日）現在
　正会員80名2団体　賛助会員35名2団体、計115名4団体（合計119）
　（前回と変わらず）

（２）第２号議案　第40回多摩デポ講座「東京都公文書館の見学会」開催の企画について
【報告・討議】
・東京都公文書館は、2020年に、西国分寺駅南口の都立多摩図書館の隣地に開館している。開館前から、見学会の講座を持ちたいとの話は多摩デポ内部であり、2020年度の総会議案書にも書かれているが、新型コロナ感染症が蔓延していったことと、公文書館では当初、団体見学を受け付ける用意がなかったため、実施できないでいた。
・開館してしばらくたち、収束しない新型コロナ感染症との併存が社会の基調となる中で、改めて公文書館に問い合わせた。公文書館の説明では、希望があれば団体見学の実施を始めている。そして施設の内側の狭い部分にも入るので1回の人数は絞っているとのこと。実施が可能になったので、先方の条件に従った見学会を実施したい。
・公文書館では、1回15名以内で、（開館している）月曜日から土曜日であれば受け入れが可能。所要時間は1時間程度とのこと。案内していただける時間の前後に、各自が開架部分や企画展示の自由閲覧をすればよいのではないか。
・『多摩デポ通信』やMLで広報して参加者を募集、取りまとめることを考えれば、実施は2月。希望者が多く集まれば、2回に分けて実施すればよい。会員だけでなく多摩地域の図書館員に案内してもよいのではないか。
・開催は2月10日以降で、どうせなら特別展示が行われている期間の方がよい。なお『多摩のあゆみ』184号は東京都公文書館の特集で、5本の論文、記事があるので、参加者は事前に読んでおくといいのではないか。（『多摩デポ通信』で紹介する。）
・事務局が都公文書館に相談して開催日を決め、理事会メーリングリストで報告し、募集を開始していく。
・実施できれば（リアルな）「多摩デポ講座」としては、2020年11月29日の山口源治郎氏の講演会以来となる。

（３）第３号議案　全国の都道府県単位での共同保存の実態調査について【報告・討議】

・前回の理事会で報告したが、事務局では現在、都道府県単位での共同保存の実態を調べ始めている。東京都内では残念ながら都立図書館が全く動きを見せない事業だが、多摩地域の市町村立図書館では自主的な動きが続いており、多摩デポの提案は支持されている。

・図書館界ではいつまでもあまり話題にならない中で、全国公共図書館協議会（「全公図」）が 2018 年度と 2019 年度に悉皆的な全国調査を行った。その 2018 年度の報告書の「第６章　都道府県域での資料保存の取組」には、「図書」を対象に６県が県立図書館と市町村図書館の協力で共同保存を行っていると書かれている。これらの県の具体的な実態や発足の経過を詳しく調べて研究し、今後の活動に生かしたい。さらに他の県の動きはどうなのかを調べていきたい。

・多摩デポから各県立図書館にアンケートを取る前に、全国の県立図書館や県単位の図書館協会、教育委員会などのウェブサイトに上がっている報告書や計画には書かれていないかを点検してみることにした。

・その結果、かなり多くの県で、県内の市町村の図書館が持ちきれなければ県立が保存するべきではないかとか、県内の蔵書の共同保存の必要性が指摘されており、既に計画が作られて動き始めているところもあるらしいことが見えてきた。

・このことで事務局では、1 月 6 日（金）夜 8 時から調べられた情報を読み込む ZOOM の勉強会を行う予定である。理事も参加できるよう案内をする。

（４）第４号議案　府中市立図書館の所蔵目録のＩＳＢＮ未記載データへの機械的なＩＳＢＮの推定と検証の事業について【報告・討議】

・前回の理事会で報告したように、10 月６日に府中市立図書館の蔵書目録中、ISBN が未入力の、日本では ISBN 導入初期の頃の目録データを抽出、（株）カーリルに送付した。

①児童書（９類）：出版年 1983-1993 年の資料 13,038 件のうち ISBN 未入力資料 2,667 件
②地域資料：出版年 1983-1993 年の資料 12,334 件のうち ISBN 未入力資料 10,545 件
③一般書（９類）：出版年 1983-1989 年の資料 30,455 件のうち ISBN 未入力資料 7,056 件

・12 月の（株）カーリルとの共同研究定例会には、（株）カーリルが機械的に推定、附番できた ISBN 付きデータが戻される予定で、定例会で議論した上で、多摩デポで会員ボランティアを募ってデータの検証作業を始めることになっていたが、都合で研究会が延期となり、その後まだ連絡が取れず、進んでいない。

・とりあえず、多摩デポからの次回の研究会の日程候補を 1 月 13 日（金）として（株）カーリルと調整して、事業を進めていきたい。

（５）その他、情報交換

・館長会の図書館サービス研究会との連携などについて

・TAMALAS 活用のアンケートの集計やそれ以降の動きが報告された。

・図書館サービス研究会の了解を得て、多摩地域の図書館から回収できたアンケートの集計結果を『多摩デポ通信』第 61 号に掲載した。図書館職員向けの多摩デポ実践講座は参加者が少なく見直しが必要で、５月の開催以後、しばらく開催できていない。

・総会記念講演会動画の一般公開について

・前回 10 月の理事会当日での視聴回数は延べ 116 回だった。理事会で一般公開が決まり、実施。

その後、多摩デポＨＰでの紹介や『多摩デポ通信』第 61 号の記事掲載、そして多摩地域の図書館へのチラシ配布を行ってきた。本日の視聴回数は 167 回になった。

→　多摩地域の博物館関係のメーリングリストにも情報を流したので、さらにその分も視聴が増えたかもしれない。

・府中市立図書館の蔵書データのＩＳＢＮ附番の検証作業（ボランティア募集）や、「多摩デポ講座」が開催できるようであれば、それらの記事の掲載を軸にして、『多摩デポ通信』第 62 号を 1 月末～2 月初めには発行していきたい。

・令和 4 年度東京都多摩地域公立図書館大会が、2023 年 1 月 26 日（木）、27 日（金）の二日間、開催される。会場は、東村山市立中央公民館。26 日午後には、「地域資料の活用とデジタルアーカイブ」と題した、元小平市立中央図書館長蛭田廣一氏の講演がある。

・その他

【多摩デポ関係記事】

・時になし

【共同保存図書館関連論文】

・特になし。論文ということではないが、各ＨＰ等から読み取れる全国の県単位での共同保存の計画の現状は、整理分析すれば貴重な資料になってくると思われる。

【今後の予定】

★　カーリルとの共同研究　定例会　　未定　（Zoom 会議）

★　事務局会議(2022 年度第 11 回)　　2023 年 1 月 20 日（金）午後 8 時より、Zoom を使って

★　次回理事会　　第７回理事会　　2023 年２月 7 日（火）

5　議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、保坂一房理事、堀　渡理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2022 年 12 月 23 日

議長

議事録署名人

議事録署名人